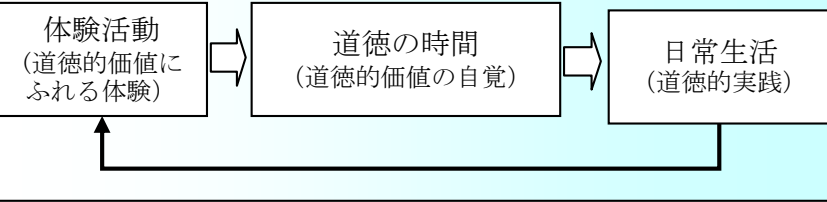


1 研究のねらい

- 体験活動や日常生活と関連させた道徳の時間を設定することを通し、道徳的な実践力を育てる。

【体験活動】 体験活動を通して考え方、感じ方を身につける
↓
【道徳の時間】 資料を通して価値について考え、深める
↓
【日常生活】 道徳的実践



3 小中連携のメリット

- 授業交流・小中で授業参観を行い、児童生徒の様子や指導内容・方法について交流することにより、共に、授業の工夫・改善を図ることができる。
- 合同研修・共通のテーマを設定し、より効果的な指導法について、共同で研究を進めることができる。
- 合同行事・上級生は、リーダー性や思いやりの気持ちを育み、下級生は、上級生の言動からめざす姿を学ぶなど、異年齢集団の体験活動を仕組むことができる。

2 道徳の時間を充実させるための取り組み

資料の分析

- ①場面の「起・承・転・結」を把握
 - ・主人公の心情の変化を捉える。
- ②発問の設定
 - ・中心場面を見つけ、中心発問を設定する。
 - ・基本発問を考える。
 - ・補助発問を考える。



資料に即したねらいを設定し、ねらいに迫る。

思いや考えを表現させるための工夫

- ワークシート、ホワイトボードの活用
 - 児童生徒の考えをまとめさせる
- ネームプレート、心情円盤の活用
 - 自分の考えの位置づけや、変容を明らかにさせる
- 思考を深める構造的な板書
 - 場面構成を整理する

授業研究の実施

- 授業記録の活用
- 視点を明確にした研究協議
 - ・資料選択、資料分析は適切だったか。
 - ・ねらいは適切だったか。
 - ・発問は精選されていたか。
 - ・導入・終末の工夫は効果的だったか。
 - ・思考を深める板書になっていたか。
 - ・児童生徒はねらいとする価値について考えることができたか。
- 小中合同研修

4 成果と課題

- 体験活動で考えたことを振り返り、主人公の気持ちと自分自身を重ね合わせて考えることにより、児童生徒の発言に深まりが見られた。
- 道徳の時間に学習した内容項目を実践する場としての体験活動を位置づけることにより、めあて達成の姿につながる具体的なイメージをもたせることができた。そのことが、児童生徒の自分から進んで行動する姿につながった。
- 今後も、学校行事等、体験活動との関連を図った道徳の時間を設定し、児童生徒の「自ら進んで行動する力」を育てる取り組みを続けていく。